

6日 日曜

ホセア

4:11 ぶどう酒、新しいぶどう酒は良識を失わせる。

4:12 わたしの民は木に伺いを立て、棒が彼らに事を告げる。これは、姦淫の霊が彼らを迷わせ、彼らが自分の神のもとを離れて、姦淫したからだ。

4:13 彼らは山々の頂でいけにえを献げ、丘の上で犠牲を供える。樅の木、ポプラ、テレビンの木の下で。その木陰が心地よいからだ。それで、あなたがたの娘は淫行をし、あなたがたの嫁は姦通をする。

4:14 わたしは、あなたがたの娘が姦淫をしても、あなたがたの嫁が姦通をしても、罰しない。男たちは遊女とともに離れ去り、神殿娼婦とともにいけにえを献げている。悟ることのない民は滅びに落ちる。

4:15 イスラエルよ。あなたが淫行をしても、ユダを咎ある者にさせてはならない。ギルガルに行ってはならない。ベテ・アベンに上ってはならない。『【主】は生きておられる』と誓ってはならない。

4:16 まことに、頑なな雌牛のようにイスラエルは頑迷だ。今、【主】は彼らを広いところにいる子羊のように養うだろうか。

4:17 エフライムは偶像にくみしている。そのなすに任せるがよい。

4:18 彼らは酒を飲んで、淫行にふけり、淫らなふるまいで恥を愛してやまない。

4:19 風はその翼で彼らを巻き込む。彼らは自分たちのいけにえのゆえに恥を見る。」

偶像を慕っている民の様子が書かれています。偶像が木でできている場合は、「木に伺いを立て」ということになってしまいます。偶像に従うことの愚



かさは明らかですが、神の代わりに、神のように従うことも同じです。愚かなことです。

「娘が姦淫しても罰しない」というのは、寛容さというよりも、男達の罪を明かにするためです。「神殿娼婦とともにいけにえを献げて」と、告発しています。

私たちの罪はこのように社会的にはいろいろ複雑で、いかようにも分析できるかもしれません。しかし主の目には単純で、明らかです。罪は主の前には明確なのです。

言い逃れをするよりも、正直に自分の非を認めることのできる人は、主に受け入れられます。そこから聖霊によって新しく始められるなら、主の祝福を受けます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

